

「私」から「客(僕)」にメッセージを送ろう

教材：「少年の日の思い出」（「現代の国語1」三省堂 他）

「少年の日の思い出」を読んだ後、つらかった過去を打ち明けてくれた

「客」に対して「私」になりきって、

「はがき新聞」にメッセージを書きましょう。



指導のねらい

学びを広げよう この話を打ち明けられた「私」は「客」にどのような言葉を返すだろうか。「少年の日の思い出」（ヘルマン＝ヘッセ）は、「現在」－「過去」の構成で終わっている。過去の場面のあとに、再び現在の場面に戻った時の登場人物の心情に思いを寄せることにより、内容理解を深めることができる。また「はがき新聞」を展示することにより、じっくり他者の考えに触れたり思いを共有したりすることができる。

文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えを確かなものにする。 (C (1) オ)

A・・・友人という「私」の立場を理解して、「客」にメッセージを述べている。

B・・・「客」の話に対して、感想を述べている。



評価の例

※「主体的に学習に取り組む態度」

A・・・「はがき新聞」が、より見やすく、伝わりやすくなるように、字を丁寧に書き、着色したりイラストを入れたりするなど、工夫して作っている。



時間配分
(目安)

① 導入（課題の説明）・・・5分

② はがき新聞の作り方説明・・・5分

③ はがき新聞の制作・・・30分

④ 振り返り・交流・・・10分

お互いの作品を紹介したり、書き方のアドバイスをしたりする。

学びを広げるポイント

- 作品はミテミテ（理想教育財団助成品）に入れて展示し、見るができるようにする。友達の作品を読むことにより、相手の考えが理解でき、「仲間作り」にもつながる。
- ミテミテに「はがき新聞」を重ねていくと、生徒作品の成長も見るができる。

見出し	記事を書いていく。	新聞名 ○○○から○○○へ
気持ち、考えをしつかり書いていく。		作成者
最後まで書くことがイラストなどを入れなくてもよい。		

教材の対象 ▶ 中学1年生 国語〈生徒向け〉
「私」から「客（僕）」にメッセージを送ろう

.....
6 相手に伝わりやすいように、表現なども考えて書きましょう。

.....
7 文字だけでなく、イラストなども描いてみましょう。

.....
8 自分の言いたいことが伝わりやすいように「見出し」をつけましょう。

.....
9 ひとつお読み直してから、新聞の「タイトル」をつけましょう。

.....
10 文章や絵が書けたら、枠などに色を塗って完成させます。
.....